ボランティアが大活躍

井の頭池の「かいぼり」

外来魚駆除と水質改善を目的とした「かいぼり」が、井の頭恩賜公園の井の頭池で実施されました。

救出された魚に皆さん興味津々。

調査記録のために測定後、モツゴやギンブナ、ナマズなどの在来魚は水抜きしない隣接の弁天池などの生けすで保護。ブラックバスやブルーギルなど外来魚は駆除されました。

魚の水槽展示や説明パネルブースも設けられ、大勢の方が「かいぼり」についての理解を深めました。

捕まえた魚はバケツで計測所まで運びます。

七井橋にも、見物のひと・ひと・ひと！

なぜ!? 池底からは200台以上の自転車が。

「魚が通りまーす」。1月25日、晴れ渡る寒空のもと、井の頭池の沿道に響くボランティアの声。3月下旬まで井の頭恩賜公園で行われた「かいぼり」期間中の「魚類等捕獲作業イベント」のひとこまです。

「かいぼり」とは、ため池の水を抜いて清掃や堤防などの修理を行ったり、魚を捕まえたりすること。近年では、外来種の駆除や水の浄化を目的として行われることが増えています。

たくさんの人々が見守る中、水を抜いた池底に入り、網などで魚などを捕獲。約230名のボランティアの皆さんが参加しました。

井の頭恩賜公園100周年に向けて

東京都建設局
西部公園緑地事務所 工事課長
（井の頭恩賜公園100年実行委員会事務局 水と緑部会長）
大道和彦さん

井の頭池の今昔

井の頭池は、昭和初期まで湧水量が豊富で池底が見えるほど水が澄んでいました。戦後、市街化による雨水の地下浸透量の減少などで、池の湧水が枯渇しました。現在は、井戸水をくみ入れていますが、緑褐色に濁ってしまい、酸素不足や高水温という厳しい環境にも強い外来魚が増殖してしまいました。

かいぼりの目的

平成29年5月の開園100周年に向けて、「水と緑の再生」の目玉となっているのが、隔年で計3回実施予定の「かいぼり」です。外来魚駆除と水質改善が主な目的です。第1回目の今回は、試行錯誤の連続でした。

期待される効果

池水を抜き、底の泥を天日干しにすることで、植物プランクトンの増殖を防止でき、水がきれいな状態が一定期間維持されるといわれています。

外来魚の駆除、池底の天日干しはほぼ予定どおり行われ、水質の改善などの効果はこれから明らかになっていくことでしょう。今後、水草の植栽なども行い、生態系の回復を通じて昔のような井の頭池の復活を目指します。

水面に水生植物が浮いた、昔の井の頭池
©公益財団法人 東京都公園協会